



毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ～子どもの読書活動を推進しましょう～

「子どもたちに読書の楽しみを」 夏休み研修より

夏休み7月末、本年度も学校図書館支援センターから弥永西小学校の研修に参加させていただきました。

「子どもたちに読書の楽しみを」ということで、日常的に担任ができる子どもたちの読書活動推進のための指導について、話をさせていただきました。

はじめに先生方にご自分の読書活動を振り返ってもらいました。

先生方が読書に興味をもつことや、読書の楽しみを感じることで、子どもたちに読書の楽しみを一番伝えることができるのではないかと話したところ、多くの先生方がうなずいていらっしゃいました。

「子どもと本との橋渡しをする先生の役割は極めて大切」と、よく言われます。先生はもちろんのこと、子どもを取り巻く全ての大人たち自身も読書の楽しみを感じる機会を持ちたいものです。

また、子どもたちの読書活動を推進するためには、何より身近に本を置くことが大切であることも話しました。

学校では、子どもたちが持っている道具袋の中に本を1冊入れておいてはどうかということ、また、その本のさまざまな活用の仕方を話しました。さらに、子どもたちの身近にある学級文庫を充実させてはどうかということと、その方法についても話しました。

家庭では、家族で本を読む日や時間を決めたり、読み聞かせをする時間を持ったり、図書館に足を運んだり・・・、それぞれの家庭でできそうなことをすることが子どもたちの読書活動推進につながります。

研修の後半は、司書からのおすすめの本と読み聞かせをしました。どんな本を子どもたちに与えたら良いか、興味を持って聞いていただきました。

今回の研修から、子どもたちの読書活動推進のために、2学期はこんなことをしてみたいと多くの先生方が感じられた研修となりました。

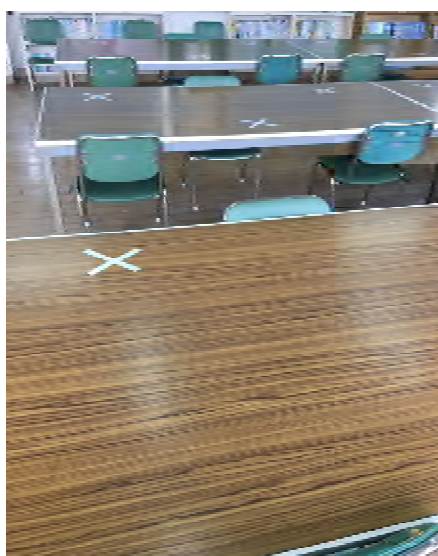


Hello! 学校図書館 堤小学校

今月紹介させていただく城南区の堤小学校は、19学級 520名の学校です。コロナ禍の中、校長先生に笑顔で出迎えていただきました。読書活動を中心とした学校経営について話をさせていただき、子どもたちの読書量の増加や、学力向上に繋がっていることをお聞きし、なるほどと感心しました。

また、図書館まで案内していただきましたが、図書館は子どもたちが使いやすいように、さまざまなところに配架の工夫が見られる落ち着いた雰囲気ですてきな図書館でした。

○新型コロナウイルス感染防止のための安全対策の工夫



カウンター周り
がすっきりと整理
されています。感
染防止対策もき
ちんと取られて
いて、清潔感に
あふれています。

テープの長さを
そろえたり、椅
子を交互に置い
たりときれい
ですね。

○子どもたちが本を選びやすい配架の工夫



配架の仕方子どもたちはさまざまな本を手にとることができます。堤小学校では、コーナーに合わせた本が見やすく面だし（表紙を見せる）をした素敵な配架がされていました。また、本の差し込み見出し板が大きく、子どもたちが本を探しやすくなっています。

図書館に本を読みに来る子たちのわくわくした顔が目につくようです。



教科書で学習したことからの並行読書のためのブックリストを作ってある堤小学校は、それに対応した本を選びやすいように配架してあります。



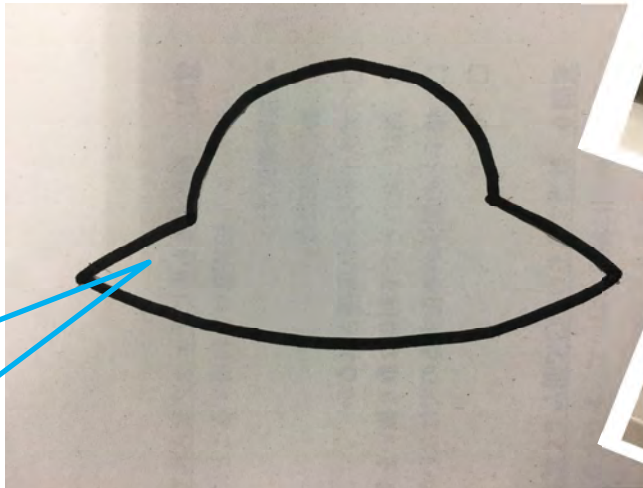
階段を上った所や廊下の隅を利用した、素敵なコーナーがありました。図書館以外の所でも、本に親しむことができます。ちょっとした椅子や、シートがあると、本を読むのも楽しくなりそうですね。

本の帯を使った8月の掲示・展示

本の帯のさまざまな紙質・色・もよう（絵柄）を生かして、たくさんの帽子や花かごを作ってみました。

前回紹介した、芯に貼ると、立体的に掲示できます。

総合図書館団体貸し出しの書架に掲示していると、来館された方々から作り方をよく聞かれます。本の横に置いていると、本を選ぶのが楽しくなりそうですね。



実物大の大きさです。ひもや型抜きの花などで飾りをつけましょう。





上から見た所
です。芯に切り
目を入れてはさ
んでいます。



9月生まれの文学者



筒井 康隆（つつい やすたか）と「時をかける少女」

1934年9月24日 大阪府大阪市生まれ

筒井氏は、1960年6月、父と3人の弟とともにSF雑誌「NULL」を創刊し、その中の短編「お助け」が江戸川乱歩氏の目に留まり、「宝石」8月号に転載され実質的な作家デビューとなりました。

代表作の「時をかける少女」は、筒井氏が中学生・高校生向けに、はじめて書いた本格的なSF作品です。相当長い連載になりそうだったため、がっちりした話にしないといけないと思い、朝から新宿御苑に行って、アイデアを考えながらうろうろ歩きまわるなどずいぶん苦しんだそうです。この話は半年ぐらいの連載でしたが、何度もドラマ化や映画化されました。

筒井氏は、小松左京氏、星新一氏と並んで「SF御三家」とも称されます。1980年には日本SF作家クラブの事務局長として日本SF大賞の創設に尽力しました。作品は、「ヨッパ谷への降下」（川端康成文学賞）「朝のガスパール」（日本SF大賞）などがあります。

【あしがき】

夏休みもあと3日を残すだけとなりました。コロナ禍の中、子どもたちはどんな夏休みを過ごしたのでしょうか。今年は、オリンピック選手の活躍する姿に感動をもらった子も多かったのではないのでしょうか。この機会にぜひ図書館にスポーツの本のコーナーや、立志コーナーを充実させてみてください。コーナーから本を手にする子も多いと思います。

2学期または前期後半は、暑い中でのスタートとなります。元気な子どもたちの笑顔が学校に戻って来ます。みんなで体調に気を付けて、過ごしていきましょう。（足立）



今月は絵がとても美しい絵本をご紹介します。

『ことりをすきになった山』

エリック=カール／絵 アリス=マクレラン／文 ゆあさ ふみえ／訳 偕成社 1987年
¥1400（税別）

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★★★ 小高学年★★☆ 中学生★★☆
高校★★☆ 一般★★☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

荒れはてた野原にそびえる岩だらけの山に、1羽の小鳥が羽を休めに立ち寄りしました。山は「ここにいてほしい」と小鳥に頼みますが、水も食べ物もないこの山に住むことはできないと小鳥は断ります。しかし山に懇願され、小鳥は「毎年春に来て山に歌ってあげること」「子孫に引き継いで必ず訪れること」を約束します。そうして長い長い年月が経つうち、次第に山は変わっていくのです。

山の変化が素晴らしい絵で表現されていて、物語にぴったり合っています。絵を描いているのは、絵本『はらぺこあおむし』の作者で2021年に亡くなったエリック=カールさん。心を打つ美しいこの絵本は、大人も楽しめます。

<子どもに手渡す時のポイント>

「『はらぺこあおむし』の人が絵を描いているよ」と教えてあげると、子どもの興味を引くと思います。ただ、少し長いので、読み聞かせてあげるにしても小学校中学年くらいからがよいと思います。表紙の裏から最後の最後までしっかりと物語の一部になっているので、文章がない部分もじっくりと見せてあげてください。



発行：福岡市教育委員会
総合図書館 図書サービス課
電話：092-852-0639
FAX：092-852-0801